

月刊誌『統計』連載「調査統計の未来へ」

掲載号：2023年6月号、7月号、8月号（以後隔月）～2025年2月号（全12回）

著者：笹島誉行 独立行政法人統計センター顧問、統計数理研究所客員教授

概要：

公的統計において、調査統計は最も中心的な統計情報として大きな役割を担っています。調査統計は、国勢調査および経済センサスのような全数調査を基本的な柱として、労働力調査、家計調査、毎月勤労統計調査など様々な標本調査により構成されています。他方、統計調査の実施に関しては、プライバシー意識の高まりなどに伴い回答への協力が得にくくなるなど、困難な課題が大きくなりつつあります。

本連載では、このような環境を踏まえ、わが国の公的統計の発達の歴史を振り返るとともに、今日の社会・経済情勢の変化など統計調査をめぐる様々な背景を分析し、統計調査の未来の姿を考察しています。調査統計の作成・整備は、その基盤となる行政組織のあり方と密接な関連があることから、行政改革や地方分権など行政制度、行政改革などの観点からも論じています。

各回のテーマは次のとおりです。

回	年月	テーマ
前半		
(1)	2023. 6	概観
(2)	2023. 7	歴史を通じて考える
(3)	2023. 8	新たな行政領域として発達した統計
(4)	2023. 10	戦時下の統計から考える
(5)	2023. 12	戦後統計の枠組
(6)	2024. 2	新たな枠組みの下でのスタート
後半		
(7)	2024. 4	行政改革と統計
(8)	2024. 6	国・地方関係と統計
(9)	2024. 8	地方分権改革を超えて
(10)	2024. 10	統計の専門人材に関する歴史から考える
(11)	2024. 12	統計法抜本改正の時代
(12)	2025. 2	統計改革は続く